

ピアノの響きが、戻る。

ヨーロッパ/日本を行き来するフォルテピアニストの平井千絵。彼女が、新しい演奏環境を探し、選んだ場所は、東京町田に古くからある寺院。しっとりとした日本独自の季節に、ヨーロッパで生まれ育った音楽は、どのように響くのでしょうか。

〈フォルテピアノとは〉

フォルテピアノは、1700年頃のイタリアで生まれ、モーツァルトやショパンなどに愛された現代のピアノの初期形態にあたる楽器です。

音の響きは現代のピアノとかなり異なり、より柔らかく、持続音は短いのが特徴です。高・中・低音部それぞれの持ち味が、まるで室内オーケストラのように多彩。弦楽器のようによく歌う中音部から次第に、細いフルートの響きのように透明さを増してゆく高音部の魅力は、とどろくように豊かに鳴る現代のピアノとは、全く違う世界を私たちに見せてくれます。またそれは、モーツァルト時代のウィーンの人々の美意識がどんなものだったかを知る手がかりにもなります。

鍵盤数は、現代のピアノの88鍵に比べ、一番小さなもので61鍵。現代のピアノでモーツァルトを弾くと、ほとんど高音部は使われないことに気付かれる方も多いと思いますが、彼は当時のピアノ、つまりフォルテピアノの全音域を目いっぱい使って作曲していたのです。



2009年6月6日(土)

平井千絵 フォルテピアノ in 築田寺

場 所: 町田築田寺(町田市忠生2-5-33)

開 場: 17時30分 開演: 18時00分

出 演: 平井千絵、浅井竜介

チケット: 3,000円(前売)/3,500円(当日)

ご予約: 会場(042-791-0602)

WEBからのご予約は、
ticket@saitocno.com まで。

企画・運営: [saitocno](http://www.saitocno.com)(サイトクノ)

<http://www.saitocno.com>

〈平井千絵プロフィール〉

文化庁在外派遣研修員としてデン・ハーグ王立音楽院古楽器科でスタンリー・ホッホランド氏にフォルテピアノを師事、02年に修士課程を室内楽・ソロとも栄誉賞付きの首席で卒業、最も優秀な学生に与えられるニコライ賞を授与された。サント国際音楽祭(フランス)、バルセロナ国際古楽祭(スペイン)、ユトレヒト古楽祭(オランダ)等への出演ほか、ヨーロッパ各地と日本でソロ、アンサンブルの活動を活発に行っている。神奈川県出身。オランダ、デン・ハーグ在住。

〈浅井竜介プロフィール〉

イギリスの高校へ編入し、自立したヨーロッパの音楽環境に影響を受ける。早稲田大学在中、近代工芸史を研究。卒業後はロンドン大学にてアートの世界に傾倒する。帰国後、音楽プロデューサーや、自身のCDを発表しつつ、陶芸家としての注目も集める。京王百貨店や、銀座三越などで年5~6回個展を開催をする、多才なシンガーソングライター。